

## 現在の肉食文化のルーツは 明治天皇の英断にあった

嘉永五年（一八五二）九月二十二日は、明治天皇がお生まれになった日である。

というと、あれっ、明治天皇は確か十一月三日生まれではなかったかと思われる年配の方もいるのではなかろうか。

確かに戦前までは十一月三日は明治節といって、明治天皇の誕生を祝う日であったし、明治時代には天長節であった。

実は、天長節というのは、「天皇誕生日」ではなく、「天皇の誕生を祝う日」なのである。旧暦九月二十二日を新暦に直すと一定しないので、これに近い十一月三日を天長節と決めたことは、結果として大正解で、晴れの特異日（毎年ある気象状態が、高い確立で現れやすい特定の日）としてよく知られている。

次代の大正時代も天皇誕生日と天長節が異なっており、大正天皇は明治十二年（一八七九）八月三十一日のお生まれであるが、明治天皇が亡くなられたのが七月三十日だったので、天長節は十月三十一日とされたのである。

明治天皇は、わが国の食肉史上最大の功績をあげた人なのだ。

わが国は公式には、天武四年（六七五）以来の牛、馬、鶏などの肉食禁断令のもとにあっ

た。しかし、文明国に立ち向かうにはそれではならじと考えられた明治天皇は、明治五年一月二十四日、初めて牛肉を召し上がったのである。肉食が解禁になったことは大ニュースとして報じられた。新聞は次のように伝えている。

「わが朝にしては中古以来肉食を禁ぜられしに、恐れ多くも、天皇いわれ謂もなき儀に思召し、自今肉食を遊ばさるる旨、宮にて御定めありたり」

天皇が肉食を始められたので、県によっては布告を出して肉食を奨励した。

肉食が解禁になったこの年こそ本当の文明開化の年だったのである。

